3.11を忘れない

福島から。福島へ。

埼玉県立所沢西高校　舛倉　史恵
小林　美絵

地震・避難から五日後、所沢に住む親戚宅に落ち着き、私は所沢西高校に通えることになりました。五月からは私たち家族は六人で川越で暮らしています。最初は友達もいない埼玉の高校に通うことがとても不安でした。友達ができるか、いじめられないか、とても悩みました。

川越に移り住んで1年6ヶ月が過ぎましたが、生まれ育ったふるさと浪江町請戸（うけど）を忘れることはありません。川越の気候にはまだ慣れず、夏は涼しく冬は温暖だった浪江町が懐かしいです。私は海沿いに住んでいたので海から香る磯のにおい、静かに聞こえてくる波の音、夜になると田んぼから聞こえてくるかえるの合唱、その全部が大好きでした。請戸港で水揚げされる新鮮な魚「アイナメ」「メバル」「ホッキ貝」はとてもおいしかったです。「アイナメのたたき」「ホッキご飯」はもう一度食べてみたいです。目を閉じるとなつかしい光景が鮮明に思い出されます。

第二のふるさとや大切な友達もできましたが、震災と事故で大好きだったふるさとを奪われてしまいました。もう浪江町に住むことは無理なのでしょうか？「事故収束」までの道のりは遠いようですが、私は負けません。前を向いてがんばっていきます。なぜなら福島に住んでいる人たちも前向きに明るく過ごしているから。

浪江町にあった私の家は津波に流されてしまいましたが、家族が無事であったことが救いでした。いつか必ずふるさとである浪江町に帰りたいなと思います。

最後に東日本大震災の発生した三月一一日を忘れないで下さい。このことは風化させてはいけないのです。

（二年　舛倉史恵）

テレビなどを通じてボランティアをしている方々の様子を知り、私にも何かできることはないかなと思い、昨年と今年の夏休みに被災地ボランティアに参加しました。忘れることはできない、とても貴重な経験となりました。被災地のことをテレビで見ていた時は、どこか遠くで起きたような気がしていました。実際に自分の目で見たり、現地の人の話を聞いたりすると、言葉にならないくらいとても怖かったです。このボランティアではたくさんの方とお話させていただきましたが、皆さん笑顔でした。元気を届けにきたのに、元気をもらいました。

二〇一一年夏に、いわき海星高校の清掃をしたときに仲良くなった生徒とは今も連絡を取りあい、昨年の夏には一緒に新潟の花火を見に行きました。被災地の復興を願った花火がたくさん上がり、それを一緒に見つめました。震災の風化がささやかれてきていますが、忘れてはいけないことだと思います。ボランティアの輪を広げ、現地を見て地元のみなさんの話を聴く機会を多くの人に持ってほしいと思います。

（三年　小林美絵）